

## レター・グループ

陸上及び船上研修における活動の基礎単位として、参加青年は11のグループに組織された。各グループは約20名の参加青年からなり、各グループを組織するには、国籍、年齢、職業等に偏りのないよう考慮した。各グループには、NLが1名ずつグループ・リーダー（Group Leader: GL）として配置され、さらに、参加青年の中からアシスタント・グループ・リーダー（Assistant Group Leader: AGL）3名（うち日本参加青年2名、外国参加青年1名）を置く構成とした。

### 《任務》

- GL
  - ア グループの参加青年を統率する。
  - イ 陸上・船上研修及び寄港地活動において、グループをまとめる。
  - ウ ほかのグループとの連絡・調整に当たる。

## 委員会

参加青年間の交流を図り、相互の友好と理解を促進することを目的とする様々な行事・活動を企画、実施するために必要な業務及び管理部との連絡を行うため、10の委員会が組織された。

- AGL（アシスタント・グループ・リーダー）委員会
- コース・ディスカッション運営委員会
- リーダーシップ・セミナー委員会
- プロジェクトマネジメント・セミナー委員会
- PYセミナー委員会
- スキルセミナー委員会
- ナショナル・プレゼンテーション委員会
- イベント委員会
- クラブ活動委員会
- 寄港地活動委員会

## コース・ディスカッション

コース・ディスカッションは、「青年の社会貢献」を共通テーマとし、世界的視野に立った共通の課題に関するディスカッションを七つのテーマに分かれて実施した。

- 子どもの人権
- ダイバーシティ推進とインクルーシブ社会の実現
- 防災活動のための人材育成
- 自他をエンパワーする対話
- 国際協力活動
- 生活習慣病
- 持続可能な経済発展を実現するソーシャル・イノベーション

- AGL
  - ア GLを助け、GLが欠けた場合には、GLに代わってグループの参加青年を統率する。
  - イ 陸上・船上研修及び寄港地活動での諸活動において、GLを助け、必要な職務を分担する。
  - ウ グループ内の参加青年の連絡・調整に当たる。他のグループとの連絡を密接にする。
  - エ グループ内の健康管理について管理部看護師の補助など、参加青年の生活環境全般についてもサポートする。

## 第2章

# 事業の実施



## 日本国内活動の概要

外国参加青年は平成30年1月16日に来日した。翌17日の昼に開催した歓迎レセプションでは松本文明内閣府副大臣が歓迎の挨拶を行った。1月18日から21日にわたり、外国参加青年に対して三泊四日の地方プログラムを実施した。1月20日からは、日本参加青年の出航前研修をオリンピックセンターで開始し、21日の夕方に地方プログラムから帰京した外国参加青年が合流し、全参加青年そろって本格的に陸上研修を開始した(研修の成果については第3章を参照)。

1月22日から1月27日まで実施された陸上研修中、各国のNLとANL1名は24日午後に皇太子殿下への御接見を賜り、また、同時に夕刻に安倍晋三内閣総理大臣

表敬を行った。

1月23日にはレター・グループ別に分かれて、日本参加青年が外国参加青年を案内する都内視察を実施し、25日には、研修の中心的プログラムであるコース・ディスカッションの七つのテーマ別に、コースの内容に即した課題別視察を実施した(課題別視察の成果については第3章を参照)。

1月28日の午前、参加青年は日本科学未来館を見学した後に横浜へ移動し、にっぽん丸に乗船。29日には、船上でオープンシップ(船内見学会)と出航式を行い、16:00に横浜港大さん橋国際客船ターミナルを出航した。

## 地方プログラム

### 岩手県(オマーンとペルー参加青年)

月日	時間	活動内容
1月18日(木)	9:36-11:47 14:10-14:30 19:45-20:45	東京駅より盛岡駅へ(はやぶさ11号) 千葉茂樹岩手県副知事表敬訪問 講演会 村上清氏「陸前高田から世界へ」
1月19日(金)	9:30-9:50 10:00-10:50 11:15-13:40 19:00-21:00	戸羽太陸前高田市市長表敬訪問 防災についてのお話:村上防災課長補佐 陸前高田市立矢作小学校児童との交流 歓迎会及びホームステイマッチング
1月20日(土)	終日	ホームステイ
1月21日(日)	12:00 12:50-15:04	ホームステイ家庭より集合 盛岡駅より東京駅へ(はやぶさ18号)



岩手県青年国際交流機構  
岩手プログラム実行委員長 藤波大吾

初日は県庁での副知事表敬訪問後、大船渡へ移動し、陸前高田市参与の村上清氏より震災復興に関する陸前高田市の取組について御講演いただきました。2日目は、陸前高田市市長表敬訪問後、村上防災課長補佐より防災に関するお話を聞きました。その後、陸前高田市立矢作小学校を訪問。一緒に遊んだりアクティビティをしたりし、給食を体験。見たことのない料理や箸に戸惑いながらも、児童に聞きながら箸を進める青年たち。その後、皆で校舎内の掃除を行い、交流会。各国パフォーマンスの後に、児童の皆さんが校歌を歌ってくれました。小学校を後にし、気仙中学校跡地で祈りをささげ、盛岡へ戻りました。

盛岡では歓迎会、ホームステイと続きましたが、ホストファミリーの皆さんの御協力のおかげですばらしいものになりました。ホームステイでは盛岡を中心に、花巻、奥州、西和賀まで様々な地域に青年たちが散って行きました。

今回のプログラムでは、岩手大学と盛岡大学の13名の学生がローカルユースとして、運営スタッフとしてかかわってくれました。本当に素晴らしい働きをしてくださいました。岩手にはこんなに優秀で熱意あふれる若者がいるのかと思うと、とてもうれしく、頼もしい気持ちになりました。

### 山形県(オーストラリアと南アフリカ参加青年)

月日	時間	活動内容
1月18日(木)	10:00-12:44 13:30-14:20 15:00-16:30 18:00-19:00	東京駅より山形駅へ(つばさ133号) 飛塚典子山形県子育て推進部部長表敬訪問 もみじ公園清風荘にて日本茶体験 歓迎会
1月19日(金)	11:00-12:00 13:20-13:50 14:20-15:40 18:00-19:45	酒田酒造見学または海向寺見学 やさいの荘の家庭料理「菜あ」の取組紹介 鶴岡南高校で高校生との交流 歓迎会及びホームステイマッチング
1月20日(土)	終日	ホームステイ
1月21日(日)	8:10 12:08-14:48	ホームステイ家庭より集合 山形駅より東京駅へ(つばさ140号)



山形県青年国際交流機構  
受入実行委員長 佐藤裕太

今年度山形県でのプログラムは、5年ぶりとなる庄内での受入れとなりました。外国参加青年が来県した18日は山形市での表敬訪問、清風荘での日本茶体験を行いました。翌19日は、2時間半ほどバスで庄内へ移動し、酒田酒造(上喜元醸造蔵)と身代で有名な海向寺のコース選択制の訪問見学を行いました。それから2014年ユネスコ食文化創造都市に認定された鶴岡市へ移動し、やさいの荘の家庭料理「菜あ」で昼食をとり、オーナーの

小野寺さんから写真を用いての取組紹介をいただきました。その後は鶴岡南高校で高校2年生約200名と「食」をテーマにディスカッション交流を実施しました。非常に充実した交流会でした。それからホストファミリーとのマッチングレセプションを行い、各家庭でのホームステイとなりました。21日は朝、参加青年とのお別れ後には、小3の男の子が寂しさで涙を光らせているのが印象的でした。

### 石川県(メキシコとモザンビーク参加青年)

月日	時間	活動内容
1月18日(木)	9:20-11:54 14:00-15:30 15:45-16:45 18:00-20:00	東京駅より金沢駅へ(かがやき507号) 喜多屋、郷土資料館見学、抹茶体験 野々市市学習センター訪問 地元青年と意見交換及び夕食
1月19日(金)	10:00-10:30 11:30-14:30 14:45-15:30 15:45-16:30 18:00-20:00	中西吉明石川県副知事表敬訪問 石川国際交流ラウンジにて日本文化体験 兼六園散策 21世紀美術館見学 歓迎会及びホームステイマッチング
1月20日(土)	終日	ホームステイ
1月21日(日)	11:00 11:56-14:52	ホームステイ家庭より集合 金沢駅より東京駅へ(はくたか562号)



石川県青年国際交流機構  
副会長 能瀬仁美

石川県の受入実行委員として、モザンビークとメキシコの青年24名の受入準備を進めてきた中で、たくさんのお逢いがありました。石川県IYEOのFacebookページを開設、マクロコズムのBulletin Boardの呼びかけでホームステイを受入れてくださった24のホストファミリー、自分の住む町、野々市市での受入れに際し、御

協力いただいた方々との出逢いは、石川県でのネットワークづくりのきっかけになったと感じます。

IYEOの事後活動は、卒業、就職や結婚等によりその時々でできる形は、私自身を含めそれぞれだと感じます。横浜港で、参加青年を乗せた「にっぽん丸」の出航に立ち合えたことは ~ Life Changing Experience!

山口県（スペインとスリランカ参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月18日 (木)	10:30 - 12:15 14:45 - 17:30 18:00 - 19:30	羽田空港より山口宇部空港へ(ANA693 便) 葉香亭にて着物着付け体験、瑠璃光寺五重塔見学 交流会
1月19日 (金)	19:30 - 9:50 11:00 - 12:00 13:30 - 14:30 15:15 - 16:15 18:00 - 20:00	小玉典彦山口県観光スポーツ文化部部长表敬訪問 芳松庵にて抹茶体験、防府天満宮拝観 マツダ防府工場見学 山口銘菓外郎体験 歓迎会及びホームステイマッチング
1月20日 (土)	終日	ホームステイ
1月21日 (日)	10:00 11:30 13:00 - 14:30	ホームステイ家庭より集合(セントコア山口) ホームステイ家庭より集合(山口宇部空港) 山口宇部空港より羽田空港へ(ANA 696 便)



山口県青年国際交流機構  
実行委員長 徳富信恵

今回スペインとスリランカの青年を受け入れました。山口県は、フランシスコ・ザビエルがキリスト教の伝道活動を行ったことから、ザビエルの生誕地であるスペイン・ナバラ州と姉妹提携をし、継続的に交流をしています。また、このザビエルはスリランカでも伝道活動をしていたということで、本県と縁のある両国の受入れとなり、とても嬉しく思いました。着物姿での国宝・瑠璃光

寺五重塔の見学や、山口銘菓である外郎作り体験を行いました。多くの青年が着物も外郎も初めてだったようですが、とても気に入った様子でした。ホームステイでは、日本の生活文化に触れ、秋芳洞などの県内観光をして交流を深めました。最後は、涙のお別れとなり、短い期間でしたが家族としての絆ができたようで、末永く交流を続けてほしいと思います。

熊本県（インドとポーランド参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月18日 (木)	10:05 - 12:00 14:30 - 15:30 16:30 - 17:00	羽田空港より熊本空港へ(JAL627 便) 水前寺公園見学 田中義人熊本県環境生活部部长表敬訪問
1月19日 (金)	9:30 10:00 13:00 - 15:30 19:00 - 21:00	熊本市役所にて熊本城及び中心市街地を見る 「ば!熊本」探し 「ば!熊本」ワークショップ 歓迎会及びホームステイマッチング
1月20日 (土)	終日	ホームステイ
1月21日 (日)	10:00 12:45 - 14:15	ホームステイ家庭より集合 熊本空港より羽田空港へ(JAL628 便)



熊本県青年国際交流機構  
会長 生野朋子

地方プログラムの4日間は熊本らしさを青年たちに伝え、私たち自身もその良さを再発見する時間となりました。交流プログラムでは「ば!熊本探し」として、熊本県立大学及び熊本大学の学生と共に街歩きを行いました。今、熊本の観光の目玉である熊本城が、震災の影響を受けて修理中です。新たな観光の目玉となるような場を探すことを目的とし、外国青年の目に面白く映るものを写真に撮り、なぜそれが面白かったのかディスカッション

しました。学生も参加青年も活発に意見を交わし合い、最後には各グループがベストオブば!を発表してくれました。

日本・インド・ポーランドは、伝統も文化も気候もそれぞれ異なります。違いがあり、個性があるからディスカッションは成立したのだと思います。熊本らしさとして伝統や街並み、人の温かさなど2か国の青年たちに伝わったことが一番の成果です。

出航前研修

1月20日から一泊二日で実施した日本参加青年の出航前研修では、NL及びSNL主導で乗船に向けた心構えと意識の統一をした後、委員会別ミーティングで各活動の運営方法などについて検討した。また、ナショナル・プレ

ゼンテーションの練習やリハーサル、セクシャル・ハラスメントを予防するために話合いの時間などを設けた。IDI調査実施に関連した説明と講義もこの研修中に行われた。

陸上研修・船上研修

1月22日から27日までオリンピックセンターで実施した陸上研修は、開講式に松山政司大臣が出席し、参加青年に対して激励を述べた。陸上研修及び1月28日から3月2日までにつぼん丸で実施した船上研修では、午

前2時限、午後3時限、夜1時限を使って様々な研修が行われた。それぞれの詳細と成果については、第3章を参照のこと。

1 委員会活動

船内活動の時間を効果的に使い、実りある活動を実施するため、参加青年で構成される委員会(委員は各国又は各グループから選出)を組織した。

活動を企画・実施する過程において、多国籍のメンバー

で構成される委員会では協議を重ねることにより、国際的な場面における合意形成とリーダーシップの取り方を学ぶことをねらいとし、そのねらいは、各活動が成功裏に終わったことから達成できたと考えられる。

AGL 委員会

各レター・グループのアシスタント・グループ・リーダー(AGL)を構成員とするAGL委員会では、全参加青年の健康管理補助を目的とした「点呼と体温測定」を行った。船内で開催されたAGLミーティングは、管理部からの伝達事項を確認するだけでなく、グループ間

の連絡・調整や、委員会活動として行うべきことについて話し合う場としても活用された。管理部からの伝達事項は、その後行われたレター・グループのミーティングで、グループ内の参加青年に周知された。

コース・ディスカッション運営委員会

コース・ディスカッションの円滑な実施のため、管理部、アドバイザー、参加青年を構成員とするコース・ディスカッション運営委員会を組織した。その役割は以下のとおり定められ、実行された。

- ・ ファシリテーターを補佐し、コースの運営に協力する

- ・ 参加青年からの意見がある場合、代表してファシリテーターにその意見を伝える
- ・ サマリー・フォーラムの企画・運営をし、必要な物品を手配する
- ・ 寄港地活動における大学生とのディスカッションをファシリテートする
- ・ 所属するコースのまとめのレポートを書く

セミナーの委員会

アドバイザーによるセミナーの円滑な実施のため、リーダーシップ、プロジェクトマネジメントの各セミナーの委員会を組織した。その役割は以下のとおり定められ、実行された。

- ・ アドバイザーの指示に基づき、セミナーの運営に協力する
- ・ セミナーの一部については、委員会が中心となって企画・運営をする
- ・ セミナーのレポートを書く

### PY・スキルセミナー委員会

PYセミナーは「社会をよりよくするための取組」、スキルセミナーは「船上研修にいかせるスキル」「事後活動に役立つスキル」というテーマに基づき、社会問題やボランティア活動等を自分自身の経験や専門分野を参考に、ワークショップやディスカッション等、参加青年が講師となって積極的にセミナーを開催した。その結果、

### ナショナル・プレゼンテーション委員会

ナショナル・プレゼンテーション（NP）は各国の参加青年が、国ごとに、自国の歴史、文化、伝統芸能そして政治や経済等の社会一般について紹介することで、参加各国に対する理解と感謝の念を深めるとともに、自らの国の事柄について再認識することを目的として実施した。

参加各国は自国をいかに分かりやすく紹介するか、練習や議論を重ね、プレゼンテーションを作り上げる過程を通じて協働意識を共有し、より強い団結力をはぐくんだ。ナショナル・プレゼンテーション①は各国15分で

### イベント委員会

イベント委員会は、1月26日と2月19日に開催されたスポーツ&レクリエーションと、2月28日に開催されたフェアウェルを企画・運営した。

1月26日に開催されたスポーツ&レクリエーションは準備運動から始まり、レター・グループ対抗の「風船

### クラブ活動委員会

参加青年が主体となって、文化にまつわる自分の特技（ダンス、歌、伝統芸能など）を他の参加青年に教える活動として、クラブ活動が実施された。委員会は、クラブ主催者と連携し、参加青年の所属クラブを決定し、3

### 寄港地委員会

9月の事前研修において、インド及びスリランカの訪問国活動における課題別視察の訪問先の候補を選定した。その後、その情報に基づいて決定した各国の課題別

発表者のプレゼンテーション能力や自主性が強化されるとともに、参加青年のバックグラウンドや活動について学ぶことができ、青年同士の相互理解や国際的視野の拡大が図られた。委員会はスケジュール管理や機材の準備等、各セミナーが円滑に進むようサポートをした。

各国の問題を含む現状の紹介をし、ナショナル・プレゼンテーション②では各国15分で文化紹介として美しい伝統舞踊、音楽、写真や映像などを使って歴史や文化を紹介した。

参加青年で組織したNP委員会は、リハーサルから発表に至るまでのスケジュール管理、照明、音響の機械操作や会場の飾り付けなどの後方支援を精力的に努め、各国の発表の成功に寄与した。また、各寄港地では、地元の方に各国の文化を披露するミニ・ナショナル・プレゼンテーションの企画・実施に協力した。

運び」「手押し車」「綱引き」といった種目を実施、2月19日は「宝探し」で親睦を深めた。

フェアウェルでは立食の夕食会の時間を使い、事業中に作詞作曲した歌、ビデオの上映、代表によるスピーチ、などが披露された。

回実施されたクラブの運営のサポートと、2月24日に実施されたクラブの成果を発表するエキシビションの企画・運営を担当した。

視察先について、参加青年の訪問先希望調査を実施し、その結果をとりまとめて参加青年の訪問先を決定した。また、課題別視察先の報告書のとりまとめを行った。

## 2 その他の研修と活動

### 事後活動セッション

日本青年国際交流機構の事後活動派遣代表者の3名が、事業終了後の活動の説明及び国内や世界各国のネットワーク作りについて説明するためにシンガポールから東京間に乗船し、2月23日及び24日に事後活動セッションを開催したほか、セッション以外の時間には、船内でSWYAAの活動や事後活動を紹介するインフォメーション・デスクを設置し、参加青年と直に意見交換や情報提供を行った。

### グループ活動

日本参加青年と10か国からの参加青年約20名で構成されたA～Kのレター・グループで様々な活動を行った。レター・グループは活動の際、基本となる活動単位で、陸上研修では1月23日に日本参加青年が計画した都内視察を行い、船上研修中は毎日夕方に15分のグループ・ミーティ

### 自主活動

休日や自由時間を利用して、共通の興味や関心を持つ参加青年の自発的なアイデアによる様々な活動が行われた。企画・運営のすべてが参加青年たちによって行わ

ングの時間を取った。このような活動を通じて、単なる情報共有のみならず、問題や喜びなども共有し合い、きずなを築き親睦を深めた。また、日々のグループ・ミーティングでは、その日に達成したことや、翌日の目標を定める時間を取った。

れ、それらの活動を通して参加青年間相互の理解と親交を深めた。

## 修了式・帰国後研修

2月28日、ドルフィンホールにおいて修了式を行った。修了式では、厳かな雰囲気の中で修了証の授与が行われ、各国のNLが代表して壇上で修了証を受け取った。その後、参加青年を代表してポーランドのNLのパヴェル・ロジャー・ジェベツキ氏とスペインのNLのレベッカ・デ・スアニ氏が合同でスピーチを行った後、駒形健一管理官から挨拶があり、閉会となった。

3月2日及び3日の二日間は日本参加青年に対し、ル・ポール麹町及び内閣府において帰国後研修を行った。研修では、5月に実施される帰国報告会に向けた準備等を行ったほか、NLによるプログラム振り返り等を行った。また、本事業で得た知識や経験などをいかす事後活動のネットワークについて日本青年国際交流機構の代表者より説明された。